

## [I]

$$(1) \quad \boxed{\text{ア}} \frac{5}{9} \quad \boxed{\text{イ}} \frac{5}{14} \quad \boxed{\text{ウ}} \frac{5}{14} \quad \boxed{\text{エ}} \frac{77}{153} \quad \boxed{\text{オ}} \frac{611}{1224}$$

$$(2) \quad \boxed{\text{カ}} 0 \quad \boxed{\text{キ}} 0 \quad \boxed{\text{ク}} 125 \quad \boxed{\text{ケ}} 3\sqrt{2} \quad \boxed{\text{コ}} 6$$

### ■解説□

(1) 3で割ったときの余りが0, 1, 2であるような1以上9以下の整数の集合をそれぞれ  $X$ ,  $Y$ ,  $Z$  とする. すなわち,

$$X = \{3, 6, 9\}, \quad Y = \{1, 4, 7\}, \quad Z = \{2, 5, 8\}$$

である.

袋  $\alpha$  から3数を取り出すとき, これらの順列は全部で  ${}_9P_3$  通りだけある.

$m$  が奇数になるための条件は, 3回目に奇数を取り出すことである. 3回目に取り出す奇数の選び方は5通りだけあり, 1, 2回目に取り出す数の順列は  ${}_8P_2$  通りだけあるから,

$$\begin{aligned} P(A) &= \frac{5 \cdot {}_8P_2}{{}_9P_3} \\ &= \frac{280}{9 \cdot 8 \cdot 7} = \frac{5}{9} \end{aligned}$$

である.

$m$  が3の倍数であることは,  $m$  の各位の数の合計が3の倍数となることと同値である. よって  $m$  が3の倍数となるための条件は, 次の (i)~(iv) のいずれかが成り立つことである.

(i)  $X$  の要素から取り出した3数を並べて  $m$  を作る.

(ii)  $Y$  の要素から取り出した3数を並べて  $m$  を作る.

(iii)  $Z$  の要素から取り出した3数を並べて  $m$  を作る.

(iv)  $X, Y, Z$  のそれぞれの要素から1つずつ取り出した3数を並べて  $m$  を作る.

$X$  の要素の3個を並べる方法の総数は  $3!$  であり,  $Y$  の要素の3個,  $Z$  の要素の3個を並べる方法の総数もこれに等しい. よって (i), (ii), (iii) のような3数の取り出し方はそれぞれ  $3!$  通りずつある. また,  $X, Y, Z$  のそれぞれの要素から1つずつ取り出す3数の選び方は  $({}_3C_1)^3$  通りだけあり, これらの並べ方は  $3!$  通りだけある. よって (iv) のような3数の取り出し方は  $({}_3C_1)^3 \cdot 3!$  通りだけある. 以上より,

$$\begin{aligned} P(B) &= \frac{3! + 3! + 3! + ({}_3C_1)^3 \cdot 3!}{{}_9P_3} \\ &= \frac{5}{14} \end{aligned}$$

である.

$m$  が奇数の3の倍数となるような確率  $P(A \cap B)$  を求めよう.  $m$  が奇数となるためには, 一の位数, すなわち3回目に取り出した数が1, 3, 5, 7, 9であることが必要である.

3回目に1を取り出す場合に  $m$  が3の倍数となるための条件は, (1, 2回目において1以外の  $Y$  の要素である4, 7が取り出される ... ①), または (1, 2回目において  $X$  の要素のうちの1つと  $Z$  の要素のうちの1つが取り出される ... ②) ことである.  $P(B)$  を求めたときと同様に考えると, ①, ②のような3数の取り出し方は, それぞれ  $2!$ ,  $({}_3C_1)^2 \cdot 2!$  通りだけある. よって, 3の

倍数である  $m$  のうちの位が1であるような3数の取り出し方は  $2! + ({}_3C_1)^2 \cdot 2! = 20$  通りだけある。3回目に3, 5, 7, 9を取り出す場合もこれと同様なので, 結局  $m$  が奇数の3の倍数となるような3数の取り出し方の総数は  $5 \cdot 20 = 100$  となり,  $P(A \cap B) = \frac{100}{9P_3}$  である。よって,

$$\begin{aligned} P_A(B) &= \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{100}{280} \\ &= \frac{5}{14} \end{aligned}$$

である。

袋  $\beta$  の中の札のすべてに区別を与えると, ここから3数を取り出すとき, これらの順列は全部で  ${}_{18}P_3$  通りだけある。

$n > 550$  となるための条件は, 次の (v)~(vii) のいずれかが成り立つことである。

(v) 1回目に6以上9以下の整数を取り出す。

(vi) 1回目に5を取り出し, かつ2回目に6以上9以下の整数を取り出す。

(vii) 1, 2回目においてともに5を取り出す。

札に区別を与えたことに注意すると, 1回目に6を取り出す方法は2通りだけあり, この場合2, 3回目の取り出し方は  ${}_{17}P_2$  通りだけある。1回目に7, 8, 9を取り出す場合も同様なので, (v) のような3数の取り出し方は  $4 \cdot 2 \cdot {}_{17}P_2$  通りだけある。同様に考えると (vi), (vii) のような3数の取り出し方はそれぞれ  $2 \cdot 4 \cdot 2 \cdot {}_{16}P_1$ ,  $2 \cdot {}_{16}P_1$  通りだけある。以上より,

$$\begin{aligned} P(C) &= \frac{4 \cdot 2 \cdot {}_{17}P_2 + 2 \cdot 4 \cdot 2 \cdot {}_{16}P_1 + 2 \cdot {}_{16}P_1}{{}_{18}P_3} \\ &= \frac{77}{153} \end{aligned}$$

である。

袋  $\alpha$  にも袋  $\beta$  にも1から9までの整数が書かれた札が均等に入れられているのだから,  $m < n$  となる確率は  $m > n$  となる確率に等しく, これより  $m < n$  または  $m > n$ , すなわち  $m \neq n$  となる確率は  $2P(D)$  である … ③。

$m = n$  となる確率を求めよう。袋  $\beta$  には同じ番号が書かれた札が2枚ずつ入れられているから,  $n$  が  $m$  に等しくなるような取り出し方は, どんな  $m$  に対しても  $2^3$  通りだけある。よって  $m = n$  となる確率は,  $1 \cdot \frac{2^3}{{}_{18}P_3} = \frac{1}{612}$  であり, 余事象を考えることにより  $m \neq n$  となる確率は  $1 - \frac{1}{612} = \frac{611}{612}$  となる。これと ③ より,

$$2P(D) = \frac{611}{612} \quad \therefore P(D) = \frac{611}{1224}$$

である。

(2) 題意の正三角形は原点を中心とする円に内接する, すなわちその外心は原点であり, よって  $\beta, \gamma$  は, これらの可換性もふまえ, 原点を中心として  $\alpha$  をそれぞれ  $\frac{2\pi}{3}, \frac{4\pi}{3}$  だけ回転して得られる点であるとしてよい。これより,  $\omega = \cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3}$  とすれば  $\beta = \omega\alpha, \gamma = \omega^2\alpha$  とできる。また,

$$\begin{aligned} \omega^3 &= \left( \cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right)^3 \\ &= \cos 2\pi + i \sin 2\pi \\ &= 1 \dots \text{④} \end{aligned}$$

であり, さらに

$$\begin{aligned}\omega^3 - 1 &= 0 \\ (\omega - 1)(\omega^2 + \omega + 1) &= 0 \\ \omega^2 + \omega + 1 &= 0 \cdots \textcircled{5} \quad (\because \omega \neq 1)\end{aligned}$$

である.

$$\begin{aligned}\alpha + \beta + \gamma &= \alpha + \omega\alpha + \omega^2\alpha \\ &= (\omega^2 + \omega + 1)\alpha \\ &= 0 \cdots \textcircled{6} \quad (\because \textcircled{5})\end{aligned}$$

となり, よって  $|\alpha + \beta + \gamma| = 0$  である. また,

$$\begin{aligned}\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha &= \alpha \cdot \omega\alpha + \omega\alpha \cdot \omega^2\alpha + \omega^2\alpha \cdot \alpha \\ &= \omega(\omega^2 + \omega + 1)\alpha^2 \\ &= 0 \cdots \textcircled{7} \quad (\because \textcircled{5})\end{aligned}$$

となり, よって  $|\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha| = 0$  である. さらに,

$$\begin{aligned}\alpha\beta\gamma &= \alpha \cdot \omega\alpha \cdot \omega^2\alpha \\ &= \omega^3\alpha^3 = \alpha^3 \quad (\because \textcircled{4})\end{aligned}$$

となり,

$$\begin{aligned}|\alpha\beta\gamma| &= |\alpha|^3 \\ &= \left(\sqrt{23+2}\right)^3 = 125\end{aligned}$$

となる.

題意の平行移動についての条件から,  $\alpha' = \alpha - 1 + i$ ,  $\beta' = \beta - 1 + i$ ,  $\gamma' = \gamma - 1 + i$  であるから,

$$\begin{aligned}\alpha' + \beta' + \gamma' &= \alpha + \beta + \gamma + 3(-1 + i) \\ &= 3(-1 + i) \quad (\because \textcircled{6})\end{aligned}$$

となり, よって  $|\alpha' + \beta' + \gamma'| = |3(-1 + i)| = 3\sqrt{2}$  である. また,

$$\begin{aligned}\alpha'\beta' + \beta'\gamma' + \gamma'\alpha' &= (\alpha - 1 + i)(\beta - 1 + i) + (\beta - 1 + i)(\gamma - 1 + i) + (\gamma - 1 + i)(\alpha - 1 + i) \\ &= \alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha + 2(-1 + i)(\alpha + \beta + \gamma) + 3(-1 + i)^2 \\ &= 3(-1 + i)^2 \quad (\because \textcircled{6}, \textcircled{7})\end{aligned}$$

となり, よって  $|\alpha'\beta' + \beta'\gamma' + \gamma'\alpha'| = |3(-1 + i)^2| = 3 \cdot (\sqrt{2})^2 = 6$  である.

〔II〕

■ 解答例 □

(1) 点  $D\left(\frac{1}{k}, k\right)$  における楕円  $C$  の接線の方程式は、

$$\frac{k^2}{2} \cdot \frac{1}{k}x + \frac{1}{2k^2} \cdot ky = 1$$

$$\frac{k}{2}x + \frac{1}{2k}y = 1$$

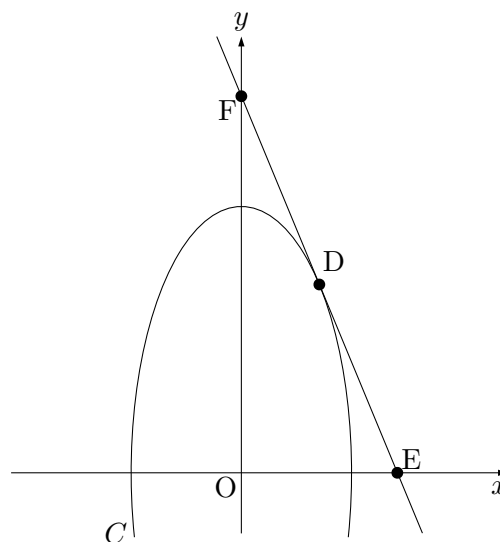
これより、 $x$  軸との交点の  $x$  座標は、

$$\frac{k}{2}x = 1 \quad \text{これを解いて、} \quad x = \frac{2}{k}$$

また、 $y$  軸との交点の  $y$  座標は、

$$\frac{1}{2k}y = 1 \quad \text{これを解いて、} \quad y = 2k$$

以上より、 $E\left(\frac{2}{k}, 0\right)$ ,  $F(0, 2k)$



(2) (1) より、接線の方程式を整理すると、

$$y = -k^2x + 2k$$

また、点  $D$  における楕円  $C$  の法線の方程式は、

$k > 1$  より、 $k^2 \neq 0$  であることから、

$$y - k = \frac{1}{k^2} \left(x - \frac{1}{k}\right)$$

整理して、 $y = \frac{1}{k^2}x + k - \frac{1}{k^3}$

これより、 $y = -x$  との交点について調べると、

$$-x = \frac{1}{k^2}x + k - \frac{1}{k^3}$$

$$k(k^2 + 1)x + (k^4 - 1) = 0$$

$$(k^2 + 1)(kx + k^2 - 1) = 0$$

$k^2 + 1 \neq 0$  であることから、 $x = -k + \frac{1}{k}$

以上より、 $G\left(-k + \frac{1}{k}, k - \frac{1}{k}\right)$

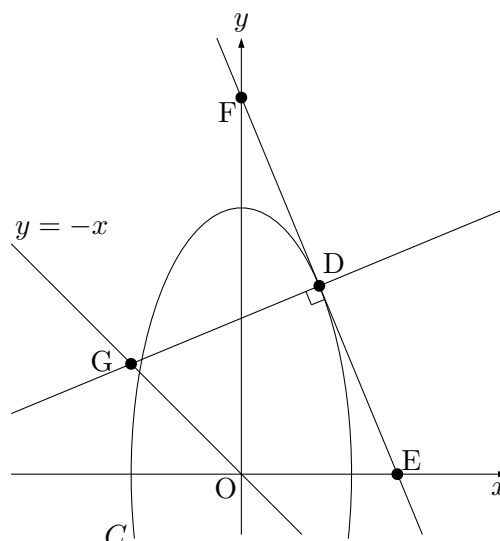
また、 $\vec{GE} = \left(k + \frac{1}{k}, -k + \frac{1}{k}\right)$ ,  $\vec{GF} = \left(k - \frac{1}{k}, k + \frac{1}{k}\right)$  であり、

$$GE = |\vec{GE}| = \sqrt{\left(k + \frac{1}{k}\right)^2 + \left(-k + \frac{1}{k}\right)^2} = \sqrt{2\left(k^2 + \frac{1}{k^2}\right)}$$

$$GF = |\vec{GF}| = \sqrt{\left(k - \frac{1}{k}\right)^2 + \left(k + \frac{1}{k}\right)^2} = \sqrt{2\left(k^2 + \frac{1}{k^2}\right)}$$

$$\vec{GE} \cdot \vec{GF} = \left(k + \frac{1}{k}\right)\left(k - \frac{1}{k}\right) + \left(-k + \frac{1}{k}\right)\left(k + \frac{1}{k}\right) = k^2 - \frac{1}{k^2} - k^2 + \frac{1}{k^2} = 0$$

$\vec{GE} \neq \vec{0}$ ,  $\vec{GF} \neq \vec{0}$  であることから、 $\angle EGF = \frac{\pi}{2}$



(3) (2) より,  $\triangle GEF$  の面積  $S$  は,  $S = \frac{1}{2} \cdot GE \cdot GF = \frac{1}{2} \cdot 2 \left( k^2 + \frac{1}{k^2} \right) = k^2 + \frac{1}{k^2}$

また,  $\triangle OEF$  の面積  $T$  は,  $T = \frac{1}{2} \cdot \frac{2}{k} \cdot 2k = 2$

ここで,  $S = \sqrt{2}T$  のとき,

$$k^2 + \frac{1}{k^2} = 2\sqrt{2}$$

$$(k^2)^2 - 2\sqrt{2}k^2 + 1 = 0$$

$$k^2 = \sqrt{2} \pm \sqrt{2-1} = \sqrt{2} \pm 1$$

であるので,  $k > 1$  より,  $k^2 > 1$  に注意すると,  $\underline{\underline{k^2 = \sqrt{2} + 1}}$

さらにこのとき,  $OE = \frac{2}{k}$ ,  $OF = 2k$  であることから,

$$\tan \angle OEF = \frac{OF}{OE} = \frac{2k}{\frac{2}{k}} = k^2 = \sqrt{2} + 1$$

これを用いると,

$$\tan 2\angle OEF = \frac{2 \tan \angle OEF}{1 - \tan^2 \angle OEF} = \frac{2(\sqrt{2} + 1)}{1 - (\sqrt{2} + 1)^2} = \frac{2(\sqrt{2} + 1)}{-2(\sqrt{2} + 1)} = -1$$

$0 < \angle OEF < \frac{\pi}{2}$  より,  $0 < 2\angle OEF < \pi$  であることに注意すると,

$$2\angle OEF = \frac{3}{4}\pi$$

以上より,  $\underline{\underline{\angle OEF = \frac{3}{8}\pi}}$

### 〔Ⅲ〕

#### ■解答例□

- (1) 題意で与えられた等式  $(n+3)a_{n+1} - (n+1)a_n = 2(n+1)$  (……①) で  $n=1$  として、さらに  $a_1 = 1$  をふまえると、

$$4a_2 - 2a_1 = 4$$

$$4a_2 - 2 = 4$$

$$a_2 = \frac{3}{2}$$

- 題意で与えられた等式  $\sum_{k=1}^n kb_k = a_n \left( \sum_{k=1}^n b_k \right)$  (……②) で  $n=2$  として、さらに  $a_2 = \frac{3}{2}$ ,  $b_1 = 1$  をふまえると、

$$1 \cdot b_1 + 2 \cdot b_2 = a_2(b_1 + b_2)$$

$$1 + 2b_2 = \frac{3}{2}(1 + b_2)$$

$$b_2 = 1$$

となる。

- (2)  $c_1 = 3 \cdot 2a_1 = 6$  である。

①の両辺に  $n+2$  をかけて、

$$(n+3)(n+2)a_{n+1} - (n+2)(n+1)a_n = 2(n+1)(n+2)$$

よって、

$$c_{n+1} - c_n = \underbrace{2(n+1)(n+2)}$$

を得る。

- (3) (2)の結果から数列  $\{c_n\}$  の階差数列の一般項が  $2(n+1)(n+2)$  であるので、 $n \geq 2$  のとき、

$$\begin{aligned} c_n &= c_1 + \sum_{k=1}^{n-1} 2(k+1)(k+2) \\ &= 6 + \sum_{k=1}^n 2k(k+1) - 2 \cdot 1 \cdot 2 \\ &= 2 + \frac{2}{3}n(n+1)(n+2) \end{aligned}$$

となる。上式は  $n = 1$  のときも満足する。よって、 $n \geq 1$  のとき、

$$\begin{aligned} a_n &= \frac{c_n}{(n+1)(n+2)} \\ &= \frac{2}{(n+1)(n+2)} + \frac{2}{3}n \end{aligned}$$

である。

(4)  $n \geq 2$  のとき、②と、②で  $n$  を  $n-1$  として得られる式を辺々引いて、

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n kb_k - \sum_{k=1}^{n-1} kb_k &= a_n \left( \sum_{k=1}^n b_k \right) - a_{n-1} \left( \sum_{k=1}^{n-1} b_k \right) \\ nb_n &= a_n \left( \sum_{k=1}^n b_k \right) - a_{n-1} \left( \sum_{k=1}^{n-1} b_k \right) \end{aligned}$$

を得る。これと題意で与えられた等式とから、

$$nb_n = a_n b_n + (a_n - a_{n-1})s_{n-1}$$

が得られる。加えて  $b_n = d_n s_{n-1}$  であることもふまえれば、

$$nd_n s_{n-1} = a_n d_n s_{n-1} + (a_n - a_{n-1})s_{n-1}$$

$$\{(n - a_n)d_n - (a_n - a_{n-1})\}s_{n-1} = 0$$

となり、 $n \geq 2$  を満たす各々の  $n$  に対して

$$(n - a_n)d_n = a_n - a_{n-1} \quad \text{または} \quad s_{n-1} = 0$$

が成り立つことがわかる。

(i)  $(n - a_n)d_n = a_n - a_{n-1}$  が成り立つとき、これと (3) の結果から、

$$\begin{aligned} \left\{ n - \frac{2}{(n+1)(n+2)} - \frac{2}{3}n \right\} d_n &= \frac{2}{(n+1)(n+2)} + \frac{2}{3}n - \frac{2}{n(n+1)} - \frac{2}{3}(n-1) \\ \left\{ \frac{1}{3}n(n+1)(n+2) - 2 \right\} d_n &= 2 - \frac{2(n+2)}{n} + \frac{2}{3}(n+1)(n+2) \\ \left\{ \frac{1}{3}n(n+1)(n+2) - 2 \right\} d_n &= \frac{2}{n} \left\{ \frac{1}{3}n(n+1)(n+2) - 2 \right\} \quad \cdots \cdots \textcircled{3} \end{aligned}$$

となる。 $n \geq 2$  において数列  $\left\{ \frac{1}{3}n(n+1)(n+2) \right\}$  は単調増加列であるから、 $n \geq 2$  において

$$\frac{1}{3}n(n+1)(n+2) - 2 \geq \frac{1}{3} \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 - 2 > 0$$

が成り立つ。これと③より、 $d_n = \frac{2}{n}$  となる。

(ii)  $s_{n-1} = 0$  が成り立つとき、②で  $n$  を  $n-1$  として得られる式  $\sum_{k=1}^{n-1} kb_k = a_{n-1} \left( \sum_{k=1}^{n-1} b_k \right)$

を用いると、

$$\sum_{k=1}^{n-1} kb_k = a_{n-1}s_{n-1} \quad \text{すなわち} \quad \sum_{k=1}^{n-1} kb_k = 0$$

となる. 上式かつ  $s_{n-1} = 0$  より, ②は,

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{n-1} kb_k + nb_n &= a_n s_{n-1} + a_n b_n \\ (n - a_n)b_n &= 0 \quad \cdots\cdots\text{④} \end{aligned}$$

と変形できる. ここで (3) の結果から,  $n \geq 2$  において,

$$\begin{aligned} n - a_n &= n - \left\{ \frac{2}{(n+1)(n+2)} + \frac{2}{3}n \right\} \\ &= \frac{n}{3} - \frac{2}{(n+1)(n+2)} \\ &\geq \frac{2}{3} - \frac{2}{(2+1)(2+2)} \\ &= \frac{1}{2} > 0 \end{aligned}$$

が成り立つ. これと④より  $b_n = 0$  となる.

よって  $s_{n-1} = 0$  が成り立つときは  $b_n = 0$  となり, これより式  $b_n = d_n s_{n-1}$  を満たす  $d_n$  は任意である.

(i), (ii)より, 2以上のあらゆる整数  $n$  に対して等式  $b_n = d_n s_{n-1}$  を満たす  $d_n$  は  $d_n = \frac{2}{n}$  である.

(5) (4)の結果から,  $n \geq 2$  において  $b_n = d_n s_{n-1}$  かつ  $d_n = \frac{2}{n}$  が成り立つから, これら2式から  $d_n$  を消去して,

$$\begin{aligned} b_n &= \frac{2}{n} \sum_{k=1}^{n-1} b_k \\ nb_n &= 2 \sum_{k=1}^{n-1} b_k \quad \cdots\cdots\text{⑤} \end{aligned}$$

を得る. ⑤で  $n$  を  $n+1$  として得られる式と⑤を辺々引くことにより,  $n \geq 2$  において,

$$\begin{aligned} (n+1)b_{n+1} - nb_n &= 2 \left( \sum_{k=1}^n b_k - \sum_{k=1}^{n-1} b_k \right) \\ (n+1)b_{n+1} &= (n+2)b_n \\ \frac{b_{n+1}}{n+2} &= \frac{b_n}{n+1} \end{aligned}$$

が成り立つことがわかる. よって  $n \geq 2$  において数列  $\left\{ \frac{b_n}{n+1} \right\}$  は定数数列であり,

$$\frac{b_n}{n+1} = \frac{b_2}{3} \quad \text{すなわち} \quad b_n = \frac{1}{3}(n+1)$$



## [IV]

### ■解答例□

$$(1) \quad f'(x) = 2 \sin x \cos x + 4 \sin x + 4x \cos x - 4 \sin x = 2 \cos x (\sin x + 2x)$$

$F(x) = \sin x + 2x$  とおくと,

$$F'(x) = \cos x + 2 > 0$$

より開区間  $(2n\pi - 2\pi, 2n\pi)$  において,  $F(x)$  は単調に増加する関数であり,

$$F(2n\pi - 2\pi) = 4\pi(n - 1) \geq 0$$

が成り立つので開区間  $(2n\pi - 2\pi, 2n\pi)$  において,  $F(x) > 0$  である.

したがって,  $f'(x)$  の符号は  $\cos x$  の符号と一致する.

よって,  $f(x)$  の増減は以下のようなになる.

$x$	$(2n\pi - 2\pi)$	$\cdots$	$2n\pi - \frac{3}{2}\pi$	$\cdots$	$2n\pi - \frac{\pi}{2}$	$\cdots$	$(2n\pi)$
$f'(x)$		+	0	-	0	+	
$f(x)$		$\nearrow$	$8n\pi - 6\pi + 1$	$\searrow$	$-8n\pi + 2\pi + 1$	$\nearrow$	

上の増減表より,

$$\begin{cases} \text{極大値は } 8n\pi - 6\pi + 1 \\ \text{極小値は } -8n\pi + 2\pi + 1 \end{cases}$$

$$(2) \quad \begin{aligned} \int f(x)dx &= \int \left\{ \frac{1 - \cos 2x}{2} + 4x(-\cos x)' + 4 \cos x \right\} dx \\ &= \frac{1}{2}x - \frac{1}{4} \sin 2x + 4\{x(-\cos x) - 1 \cdot (-\sin x)\} + 4 \sin x + C \\ &= \frac{1}{2}x - \frac{1}{4} \sin 2x - 4x \cos x + 8 \sin x + C \quad (\text{ただし, } C \text{ は積分定数}) \end{aligned}$$

$$(3) \quad \begin{cases} g(x) = x - \sin x \\ h(x) = \sin x - \frac{3}{\pi}x \end{cases}$$

とおくと,

$$\begin{cases} g'(x) = 1 - \cos x > 0 & \left(0 < x < \frac{\pi}{6}\right) \\ h'(x) = \cos x - \frac{3}{\pi} \end{cases}$$

となる.  $0 \leq x \leq \frac{\pi}{6}$  において  $h'(x)$  は単調に減少する関数であり,

$$\begin{cases} h'(0) = 1 - \frac{3}{\pi} > 1 - \frac{3}{3.1} > 0 \\ h'\left(\frac{\pi}{6}\right) = \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{3}{\pi} < \frac{1.8}{2} - \frac{3}{3.2} = \frac{5.76 - 6}{2 \times 3.2} < 0 \end{cases}$$

であることに注意すると,

$$h'(\alpha) = 0 \quad \left(0 < \alpha < \frac{\pi}{6}\right)$$

を満たす実数  $\alpha$  がただ 1 つ存在し, これを用いると  $g(x)$ ,  $h(x)$  の増減は以下ようになる.

$x$	0	...	$\frac{\pi}{6}$
$g'(x)$		+	
$g(x)$	0	↗	

$x$	0	...	$\alpha$	...	$\frac{\pi}{6}$
$h'(x)$		+	0	-	
$h(x)$	0	↗		↘	0

上の 2 つの増減表より,  $0 \leq x \leq \frac{\pi}{6}$  において

$$g(x) \geq 0 \quad \text{かつ} \quad h(x) \geq 0$$

すなわち  $\frac{3}{\pi}x \leq \sin x \leq x$  が成り立つ.

(証明了)

(4) すべての自然数  $n$  に対して,

$$2n\pi - \frac{\pi}{2} < 2n\pi - \frac{1}{n\pi} < 2n\pi$$

が成り立つから, (1) の増減表より開区間  $\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}, 2n\pi\right)$  において,  $f(x)$  は単調に増加する関数である. また,

$$f(2n\pi) = 4 > 0$$

さらに,

$$\begin{aligned} f\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right) &= \sin^2\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right) + 4\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right) \sin\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right) + 4 \cos\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right) \\ &= \sin^2 \frac{1}{n\pi} - 4\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right) \sin \frac{1}{n\pi} + 4 \cos \frac{1}{n\pi} \\ &= \sin^2 \frac{1}{n\pi} - 8n\pi \sin \frac{1}{n\pi} + \frac{4}{n\pi} \sin \frac{1}{n\pi} + 4 \cos \frac{1}{n\pi} \\ &< 1 - 8n\pi \sin \frac{1}{n\pi} + \frac{4}{n\pi} + 4 \end{aligned}$$

ここで,

$$\frac{n\pi^2}{6} > \frac{1 \times 3.1^2}{6} = \frac{9.61}{6} > 1$$

より  $0 < \frac{1}{n\pi} < \frac{\pi}{6}$  が成り立つので, (3) の結果より,

$$\begin{aligned} f\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right) &< 1 - 8n\pi \sin \frac{1}{n\pi} + \frac{4}{n\pi} + 4 \\ &\leq 1 - 8n\pi \cdot \frac{3}{\pi} \cdot \frac{1}{n\pi} + \frac{4}{1 \cdot \pi} + 4 \\ &= 5 - \frac{20}{\pi} \\ &< 5 - \frac{20}{3.2} \\ &= \frac{5 \times 3.2 - 20}{3.2} < 0 \end{aligned}$$

であるから, 中間値の定理より开区間  $\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}, 2n\pi\right)$  において,  $f(x) = 0$  はただ1つの実数解をもつ.

(証明了)

(5) (4) の結果より

$$\begin{cases} 2n\pi - \frac{1}{n\pi} < p_n < 2n\pi \\ 2(n+1)\pi - \frac{1}{(n+1)\pi} < p_{n+1} < 2(n+1)\pi \end{cases}$$

が成り立ち, これより

$$\begin{cases} 0 < 2n\pi - p_n < \frac{1}{n\pi} \\ 0 < 2(n+1)\pi - p_{n+1} < \frac{1}{(n+1)\pi} \end{cases} \dots\dots ①$$

が成り立つ.

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n\pi} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{(n+1)\pi} = 0$$

であるから, ①と合わせて考えると

$$\lim_{n \rightarrow \infty} (2n\pi - p_n) = \lim_{n \rightarrow \infty} \{2(n+1)\pi - p_{n+1}\} = 0 \dots\dots ②$$

が成り立つ.

ここで, (2) の結果を用いると

$$\begin{aligned} \int_{p_n}^{p_{n+1}} f(x) dx &= \left[ \frac{1}{2}x - \frac{1}{4} \sin 2x - 4x \cos x + 8 \sin x \right]_{p_n}^{p_{n+1}} \\ &= \frac{1}{2}(p_{n+1} - p_n) - \frac{1}{4}(\sin 2p_{n+1} - \sin 2p_n) + 8(\sin p_{n+1} - \sin p_n) \\ &\quad - 4(p_{n+1} \cos p_{n+1} - p_n \cos p_n) \quad \cdots \cdots \textcircled{3} \end{aligned}$$

が成り立ち、②を用いると、

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} (p_{n+1} - p_n) &= \lim_{n \rightarrow \infty} \{2n\pi - p_n - 2(n+1)\pi + p_{n+1} + 2\pi\} = 0 - 0 + 2\pi = 2\pi \\ \lim_{n \rightarrow \infty} (\sin 2p_{n+1} - \sin 2p_n) &= \lim_{n \rightarrow \infty} \{\sin(2p_{n+1} - 4(n+1)\pi) - \sin(2p_n - 4n\pi)\} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \{-\sin(4(n+1)\pi - 2p_{n+1}) + \sin(4n\pi - 2p_n)\} \\ &= -0 + 0 = 0 \\ \lim_{n \rightarrow \infty} (\sin p_{n+1} - \sin p_n) &= \lim_{n \rightarrow \infty} \{\sin(p_{n+1} - 2(n+1)\pi) - \sin(p_n - 2n\pi)\} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \{-\sin(2(n+1)\pi - p_{n+1}) + \sin(2n\pi - p_n)\} \\ &= -0 + 0 = 0 \end{aligned}$$

が成り立つ。

ここで、 $2n\pi - p_n = q_n$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) とおくと、

$$0 < q_n < \frac{1}{n\pi} < \frac{\pi}{2} \quad \text{かつ} \quad 0 < q_{n+1} < \frac{1}{(n+1)\pi} < \frac{1}{n\pi}$$

であるから、

$$0 < \cos \frac{1}{n\pi} < \cos q_n < 1 \quad \text{かつ} \quad 0 < \cos \frac{1}{n\pi} < \cos q_{n+1} < 1$$

となり、さらに

$$\begin{aligned} p_{n+1} \cos p_{n+1} - p_n \cos p_n &= \{2(n+1)\pi - q_{n+1}\} \cos(-q_{n+1}) - (2n\pi - q_n) \cos(-q_n) \\ &= \{2(n+1)\pi - q_{n+1}\} \cos q_{n+1} - (2n\pi - q_n) \cos q_n \quad \cdots \cdots \textcircled{4} \end{aligned}$$

となる。これより、

$$\begin{aligned} \textcircled{4} &> \left\{ 2(n+1)\pi - \frac{1}{n\pi} \right\} \cos \frac{1}{n\pi} - (2n\pi - 0) \cdot 1 \\ &= 2\pi \cos \frac{1}{n\pi} - 2n\pi \left( 1 - \cos \frac{1}{n\pi} \right) - \frac{1}{n\pi} \cos \frac{1}{n\pi} \\ &= 2\pi \cos \frac{1}{n\pi} - \frac{2}{n\pi} \cdot \frac{1 - \cos \frac{1}{n\pi}}{\left( \frac{1}{n\pi} \right)^2} - \frac{1}{n\pi} \cos \frac{1}{n\pi} \\ &= \left( 2\pi - \frac{1}{n\pi} \right) \cos \frac{1}{n\pi} - \frac{2}{n\pi} \cdot \frac{\sin^2 \frac{1}{n\pi}}{\left( \frac{1}{n\pi} \right)^2} \cdot \frac{1}{1 + \cos \frac{1}{n\pi}} \rightarrow 2\pi \quad (n \rightarrow \infty) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
④ &< \{2(n+1)\pi - 0\} \cdot 1 - \left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right) \cos \frac{1}{n\pi} \\
&= 2\pi + 2n\pi \left(1 - \cos \frac{1}{n\pi}\right) + \frac{1}{n\pi} \cos \frac{1}{n\pi} \\
&= 2\pi + \frac{2}{n\pi} \cdot \frac{1 - \cos \frac{1}{n\pi}}{\left(\frac{1}{n\pi}\right)^2} + \frac{1}{n\pi} \cos \frac{1}{n\pi} \\
&= 2\pi + \frac{1}{n\pi} \cos \frac{1}{n\pi} + \frac{2}{n\pi} \cdot \frac{\sin^2 \frac{1}{n\pi}}{\left(\frac{1}{n\pi}\right)^2} \cdot \frac{1}{1 + \cos \frac{1}{n\pi}} \rightarrow 2\pi \quad (n \rightarrow \infty)
\end{aligned}$$

であるから,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} (p_{n+1} \cos p_{n+1} - p_n \cos p_n) = 2\pi$$

が得られる.

以上と③より

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \int_{p_n}^{p_{n+1}} f(x) dx = \frac{1}{2} \cdot 2\pi - \frac{1}{4} \cdot 0 + 8 \cdot 0 - 4 \cdot 2\pi = \underline{\underline{-7\pi}}$$